

あいち病害虫情報 最新情報

令和3年9月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

台風14号による強風雨にご注意ください

台風14号が9月18日（土）ごろに東海地方付近を通過することが予想されています。台風通過後、ほ場の状況を確認するとともに、強風を伴う雨で被害を受けた作物は、傷口から病気が感染するおそれがあるため、殺菌剤による防除を実施しましょう。

トビイロウンカ

9月上旬に県内各地で本田調査（11地点18ほ場）を実施しましたが、トビイロウンカの発生は確認されておらず、予察灯においても誘殺されていません。また、現在のところ、トビイロウンカによる被害（坪枯れ）は確認されていません。しかし、近隣県では、現在までに予察灯で多数の誘殺が確認されていることから、本県にも飛来している可能性が十分にあります。トビイロウンカがほ場に定着している場合、第3世代幼虫の成長期である9月から10月にかけて坪枯れが発生する可能性があります。

トビイロウンカの防除適期は各世代の幼虫発生期となりますので、表に記載された時期を参考に防除を検討してください。薬剤については9月3日発表の「ウンカ類情報第7号（トビイロウンカ）」を参照してください。また、坪枯れの初期症状が確認された場合は、防除を実施するとともに、収穫適期がきたら速やかに収穫しましょう。

表 有効積算温度をもとに計算したトビイロウンカ幼虫の発生予測時期

飛来予測		名古屋	岡崎	豊橋	新城
7月上旬飛来群	第3世代幼虫	10月上旬	10月上旬 ～中旬	9月下旬 ～10月上旬	10月中旬 ～下旬

各地のアメダス平均気温から予測（9月17日計算）。

9月16日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。豊橋は前年値を用いて計算。

イネ白葉枯病

県内各地で白葉枯病の発生を確認しています。今後、台風14号による大雨、強風により、さらなる発生拡大が懸念されます。本病の病原菌は水田畦畔のイネ科雑草や被害わら等で越冬します。今作で被害が目立つ場合、次作の伝染源量を減らすため、年内の耕起や次作での育苗箱施薬等の対策を検討しましょう。

ダイズの害虫

8月下旬の巡回調査において一部ほ場で吸実性カメムシの多発生が確認されています。また、名古屋地方気象台9月16日発表の1か月予報によると、気温は高いと予想されており、本種の活動に好適な条件となる可能性があります。また、収穫済みの水田から近隣のダイズほ場にミナミアオカメムシ等が移動する可能性があるため、子実肥大初期（開花30～40日後）に防除を行いましょう。

8月の巡回調査において、県内各地のダイズほ場でシロイチモジヨトウの発生及びハスモンヨトウによる白変葉を確認しています。いずれの種もふ化後しばらくは集団で生息し、

齡期が進むにつれて次第に分散します。そのため、幼虫の寄生を確認したら、速やかに防除を行いましょう。なお、西尾市のダイズほ場に設置したフェロモントラップにおいて、シロイチモジヨトウが多く誘殺されているほか、長久手市のフェロモントラップでハスモンヨトウが多く誘殺されています。今後の発生状況に注意しましょう。

フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数は、西尾市で多く、豊田市で平年並、安城市で少ない状況です。本種は子実も加害するため、今後の発生状況に注意しましょう。

果樹の病害虫

豊橋市及び新城市に設置したチャバネアオカメムシの予察灯における誘殺数が8月第5半旬から第6半旬にかけて急増しましたが、その後はおおむね平年並の水準となっています。しかし、名古屋地方気象台9月16日発表の1か月予報によると気温は高いと予想され、今後も果樹カメムシ類が活発に活動し、果樹園への飛来増加に伴う被害発生のおそれがあります。また、台風通過による強風が発生した場合、突然、果樹園へ多数飛来する可能性がありますので注意しましょう。

ナシヒメシクイのフェロモントラップによる誘殺数は一部地域でやや多い傾向にあり、特に西尾市では8月第2半旬及び第6半旬で急増し、平年よりも多く誘殺されています。秋季はナシほ場への成虫の飛来が続くことがあるので、発生が多いほ場では収穫前日数に注意し、防除しましょう。

ナシ黒星病が発生しているほ場では、次作の伝染源を減らすため、秋季防除を実施しましょう。近隣に収穫を控えているほ場がある場合、農薬の使用にあたっては、飛散防止に努めるとともに、収穫前日数に注意しましょう。

モモせん孔細菌病の病原菌は枝や落葉痕部の組織内で越冬し、次作の伝染源になります。枝病斑の除去やI Cボルドー412などの農薬散布による収穫後の秋季防除を実施しましょう。

一部地域でシロイチモジヨトウの発生が多い

9月上旬の巡回調査において、キャベツほ場での幼虫の発生量は平年並でしたが、フェロモントラップにおける成虫の誘殺数は、**田原市のキャベツほ場で多い状況**です。名古屋地方気象台9月16日発表の1か月予報によると、気温は高いと予想されており、本虫の発生に好適な条件となりますので、ほ場での発生に注意し、防除を徹底しましょう。防除対策等は、8月17日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第8号」を参考にしてください。

フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数が多い

9月上旬の巡回調査において、キャベツほ場での幼虫の発生量は平年と比較して少ない結果でしたが、野菜類のほ場に設置したハスモンヨトウのフェロモントラップにおける成虫の誘殺数は**多い状況**です。名古屋地方気象台9月16日発表の1か月予報によると、気温は高いと予想されており、本虫の発生に好適な条件となりますので、幼虫の発生を確認したら速やかに防除しましょう。詳細は、9月3日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参考にしてください。

野菜類、花き類のチョウ目害虫

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、**東三河地域でやや多くな**っていますが、他地域ではおおむね平年並です。キャベツでは結球部に食入すると防除が難しくなり、キクでは、花蕾が食害されますので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

コナガのキャベツほ場での発生量は、9月上旬の巡回調査では平年並です。ほ場をよく

観察し、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

ハイマダラノメイガのキャベツほ場での発生量は、9月上旬の巡回調査では平年並ですが、育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

アブラナ科野菜の細菌性病害に注意！

黒腐病、軟腐病等の細菌性病害は降水量が多いと発生が増加します。また、植物体の傷は、病原菌の侵入口となるので、激しい風雨によって傷ができた場合や、害虫の食害痕が多い場合も発生を助長します。名古屋地方気象台9月16日発表の1か月予報によると、降水量はほぼ平年並の見込みですが、台風等の悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

イチゴ炭疽病に注意！

イチゴの炭疽病は、7月下旬の巡回調査で発生量が多い状況でした。炭疽病は、気温が高いと発生が助長されます。名古屋地方気象台9月16日発表の1か月予報によると、気温は高いと予想されているため、注意しましょう。また、炭疽病は風雨で周辺に拡大するので、育苗ほでの発生がある場合は、発病株は速やかに処分しましょう。発病株の周辺にある株は症状が無くても同様に処分しましょう。定植には発病株や発病が疑われる株は絶対に使用しないようにしましょう。本ほで発生を確認したら、速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分しましょう。防除対策等は8月3日発表の「令和3年度病害虫発生予察注意報第7号」も参考にしてください。

トマト、ミニトマトの黄化葉巻病、黄化病

トマト、ミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類を防除するとともに、感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820